

授業科目	中国法演習
演習題目	法文化論から見る中国
担当教員	西 英昭
授業の目的	<p>日中関係がかつてない程冷え込む中、マスコミやネットには様々な「中国人論」があふれかえり、一体どれが正しいのか、どれを信じたらいいのか、俄かには判別がつかない程です。他方で中国人観光客のマナーの問題や外交に見るような居丈高な態度を見ると、「中国人ってどうしてあんなだろう」と思ってしまう方も多いと思います。</p> <p>この「中国人はどうしてあんなのか」という問題は、令和日本の私たちだけが直面した問題ではありません。これはその時代その時代で日本人が否応なく直面した問題であり、これまでも無数の「中国人論」が生産されてきました。今年のゼミではそうした言説の中から近代中国における「中国人論」を取り上げてつぶさに観察すると同時に、翻って現在の我々の状況はどうか、これでいいのか、という問題を考える手がかりにしていきたいと思います。</p>
履修条件	特になし（中国語は出来なくても全く問題ありません）。言ってしまうえば、実定法の細かな知識や政治学の精緻な理論に精通していなくても全く問題ありません。
教科書・参考書	さしあたり内山完造『生ける支那の姿』（學藝書院・1935）を読んでいこうと思います。（国立国会図書館デジタルコレクションで見ることが出来ます。）その他については適宜ゼミを進める中で追加していこうと思います。同書が描く今から90年程前の中国は、その後激変に次ぐ激変を経て現在に至りますが、ではそこに書かれた中国と現在の中国の間には果して通じるものがあるのかどうか。また、日中全面開戦前夜という日中関係がこじれにこじれた中での中国人論として、現在の我々に示唆を与えるものであるかどうか、皆さんとじっくり議論していきたいと思います。
授業の計画・内容	<p>前期については共通の文献を皆で輪読しながら議論を行います。</p> <p>後期については各人の興味関心に応じた報告を行ってまいります。広く中国・台湾・香港・華人社会に関するものであればテーマは自由に選んでもらって構いません。</p>
成績評価の方法	毎回の出席、報告、期末レポートを総合的に勘案します。